

奄美野生生物保護センター
ニュースレター

奄美の風だより



今年は、去年よりシロハラやツグミなどの冬鳥が多く渡ってきているようです。あちらこちらで鳥の音が聞こえ、奄美をにぎやかにしてくれています。

さて、奄美大島と徳之島にお住いの方々に、秋・冬のこの時期に気を付けていただきたいことがあります。それはアマミノクロウサギの交通事故です。この時期は繁殖期のため活動が活発になると考えられており、交通事故死した個体の発見数が増加します。

上の写真は、交通事故が原因で負傷したと思われる個体です。現在は療養中ですが、下あごは骨折、前歯も折れ、肢にも裂傷。野生復帰できるまで回復してくれることを祈るのみです。

そこで、みなさんをお願いします。自分たちが住んでいる場所や通勤などで使う道は、アマミノクロウサギの生息域に入っているのかを知り、夕方から夜間に車を使う場合は、「アマミノクロウサギがここにはいる。突然飛び出してくる可能性がある。」と頭にいれ、気を付けてゆっくり走ってほしいのです。人にとっては「動物が突然飛び出してくる」かもしれませんが、動物からすれば「はっげ～、たまがり～（あれ～、びっくり～）。車が突然飛び出してきたっちょ～」と、言っているかもしれませんよ。動物たちにとっても、道路は生活空間。思いやりをもって「ゆっくり走ってくりんしょれ～」
(吉田)



今の時期に見られる動植物



オス

メス

ジョウビタキ

奄美へは冬鳥として渡来し、集落付近の平地、農耕地などの開けた場所で見られる。尾を振りながら頭をひょこっと下げる動作をよくする。



成虫

シンジュサン（幼虫）

各節に短い肉質突起をもつ。幼虫がシンジュの葉を食べるため、この名前がついた。葉を綴ってまゆを作る。



キツネノヒマゴ

低地から産地の林縁などに生える1年生草本。花冠は淡紅色や白色で、長さは約5mm。



ツルソバ

畑や土手、道端などに生える多年生草本。茎は長く伸び、ときにつる性となって下部をはう。花に見えるのは、5裂した萼。



今季の一枚 「ユワンツチトリモチ」

12月頃から見頃を迎えるユワンツチトリモチ。真っ赤なイチゴのようでとても可愛らしいです。イジュやコバンモチに寄生する、多年生寄生植物です。

実は、平成24年8月に改定される前のレッドリストでは、絶滅危惧IA類となっていたのですが、改定後はヤクシマツチトリモチと同種と考えられるため、評価対象外となりました。植物の分類はとても難しく、遺伝子レベルでみないと分からないこともあります。これから、また新たな種も見つかることもあるでしょうし、統一されることも出てくるでしょう。



奄美群島市町村だより

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。



今回は
龍郷町
です



赤尾木集落東海岸のハートロック

龍郷町は、奄美大島の北部に位置し北部に東シナ海、南東部は太平洋に面しています。大島紬の代表的な銘柄である「龍郷柄・秋名バラ」は本町が発祥といわれています。

【ヒカンザクラ】

龍郷町の花

1月下旬から2月上旬、みごとな濃紅紫色の花を咲かせます。本町の本茶峠のサクラ並木は全国に先がけて春の到来を告げます。



おすすめ

観光名所「南洲流謫跡/ソテツ・バショウ群生地/新たな観光ポイント」



南洲流謫跡

【南洲流謫跡】

1859年1月。後に明治維新で活躍する西郷南洲翁が砂糖運搬船「福德丸」から、龍郷阿丹崎の地に降り立ちました。この時、南洲翁は32歳でした。南洲翁を抜擢した名君、島津斉彬が急死し、藩主となった島津久光から奄美大島に潜居を命ぜられ、失意の内であったといわれています。龍郷で暮らした3年間で、西郷は龍家の愛加那を妻に迎え、後の京都市長で本町の名誉町民である菊次郎と菊子の二人をもうけました。南洲流謫跡では、ゆかりの品や勝海舟から贈られた碑文などが展示されています。

【ソテツ・バショウ群生地】

本町の安木屋場地区にあるソテツの本数は約6万本とも言われ、山肌一面に広がる光景は圧巻です。ソテツは現在観賞用などに利用されていますが、昔は食料として利用され第二次世界大戦前後まで島民の大切な食糧でした。ソテツの幹からデンプンを探り、粥に混ぜて「シンガイ」を作ることができ、ソテツの実からもデンプンを探り「ナリガユ」を作ることができます。どれも飢饉時の大切な食糧でした。



バショウ

また、安木屋場地区と円地区の間の県道沿いには頂まで3ヘクタールに及ぶイトバショウの群落を見ることができます。バショウは元々中国原産といわれ、バショウ科に属する多年草です。幹の芯は飢饉時代に食料となり、外皮は衣服バシャギン（芭蕉布）の原料として利用されました。バショウは方言で「バシャ」と言いますが、このように一箇所に群生しているところを「バシャヤマ」といいます。このバシャヤマは、奄美では最大の群落と思われます。

【新たな観光ポイント】

新しい観光のポイントとして、円集落にある「かがんばなトンネル」に沈む夕日と、赤尾木集落東海岸のハートロックが今脚光をあびています。



ソテツ



かがんばなトンネル

(龍郷町 企画財政課)

いきもののふしぎ ~ コウモリのはなし ~

夜行性であるコウモリの姿を見ることはなかなかできません。そのため馴染みのある生きものではないかもしれませんが、奄美群島には8種のコウモリが分布します。コウモリについて知ること、少しでも興味をもってもらえたらと思います。



ポイント コウモリとは？

翼手目の総称。コウモリ亜目とオオコウモリ亜目の2つに分かれます。哺乳類で唯一飛ぶことができます。

オリイコキクガシラコウモリ



コウモリの形態

コウモリ亜目とオオコウモリ亜目は、食べるものや形態が異なります。コウモリの基本的な形態とそれぞれの違いを見ていきましょう。

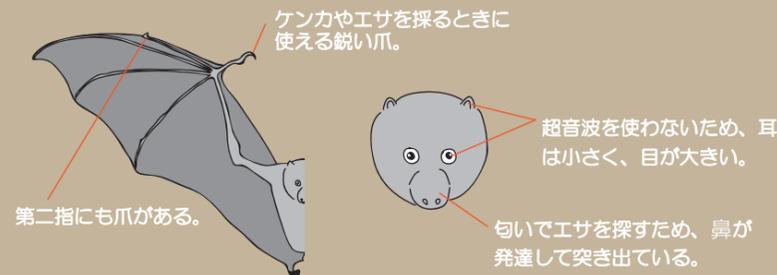
コウモリ亜目

超音波を使い、物の位置を確認する。目が小さく、鼻と耳が発達している。主に昆虫をエサとしている。



オオコウモリ亜目

超音波を使わないため、目が大きく耳が小さい。主に果物や花の蜜をエサとする。



★ 翼の形

広短型：小回りがきき、木や茂みの間を自由に飛べる。地面から垂直に飛び上がれる。
狭長型：長い距離を速いスピードで続けて飛べるが小回りが利かない。地面から直接飛び上がれない。

★ 超音波

超音波は、鼻や口から出す。
鼻の場合：一定の音波を出し、茂みの中で獲物をとる。鼻の形が特徴的。
口の場合：高周波から低周波まで変化する超音波を出し、開けた空間で獲物を捕る。



ポイント オオコウモリ亜目の分布

オオコウモリ亜目は、八重山諸島、沖縄島、南・北大東島、トカラ列島、奄美では与論と沖永良部に生息していますが、何故か奄美大島には生息していません。地理的には分布していてもおかしくないのですが、生息していない理由は不明です。

奄美群島に分布するコウモリ

生態など詳しく見ていきましょう。

● オリイコキクガシラコウモリ

分布：奄美大島、加計呂麻島、徳之島、沖永良部島。奄美群島の固有亜種。
住みか：洞穴性

● ヤンバルホオヒゲコウモリ

分布：奄美大島、徳之島、沖縄島。琉球列島の固有種。
住みか：不明
1996年10月にやんばるで初めて捕獲された。

● リュウキュウユビナガコウモリ

分布：奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖縄島、久米島、石垣島、西表島。琉球列島の固有種。
住みか：洞穴性

● スミイロオヒキコウモリ

分布：沖永良部島、奄美大島、与論島、中国。
この種は、捕獲例が世界に5例しかない謎に包まれたコウモリ。そのため、生態が全く分かっていない。

● モモジロコウモリ

分布：北海道、本州、四国、九州、佐渡、隠岐、対馬、香取、福江島、種子島、奄美大島、徳之島。
住みか：洞穴性

● アブラコウモリ

分布：北海道、本州、四国、九州、佐渡、対馬、口永良部島、口之島、宝島、奄美大島、徳之島、沖縄島、慶良間島、宮古島、伊良部島、西表島。
住みか：瓦の下や建物の隙間など。

● リュウキュウテングコウモリ

分布：奄美大島、徳之島、沖縄島。琉球列島の固有種。
住みか：樹洞にいたのが1例確認されている。
1996年10月にやんばるで初めて捕獲された。

● オリイオオコウモリ

分布：沖永良部島、与論島、沖縄島。
住みか：林内にある比較的高い木の林冠部の枝にぶら下がる。沖永良部島で2011年に初めて捕獲された。繁殖している可能性があり、今後の調査が期待される。



ポイント 自動撮影カメラで撮られたコウモリ

どんな生きものがあるのか、この場所では特定の種が生息しているのか、などの調査の時に使われる自動撮影カメラ。コウモリたちもよく映りこみます。

● リュウキュウテングコウモリ



● カメラ目線



● コウモリ vs ネズミ



● 地面スレスレに飛ぶ



● 後ろ姿



● 自動撮影カメラに止まった



沖縄では、ヒメハブのお腹からリュウキュウテングコウモリが出てきたことがあるそうです。地面スレスレで飛んでいる写真が何枚も撮られているので、倒木や地面に降りて行動している可能性がありそうです。

写真提供：倉石武（東京大学医科学研究所・奄美病害動物研究施設）

謎の声

奄美大島のさまざまな場所で「謎の声」の情報が…。鳴き声の正体は？

今年の2～3月頃の夜のことで、奄美野生生物保護センターの駐車場上空で、鳥でも虫でもない謎の声が聞こえました。それは、同じ場所を巡回しているようでしたが、姿を確認することは出来ませんでした。何の声だったのか？結論としては、コウモリの声だったと考えています。実は、オヒキコウモリは人でも聞こえる音波を出します。しかし、オヒキコウモリは奄美には分布していませんので、有力なのがスミイロオヒキコウモリです。謎の声は色々な場所で確認されており、市街地でも確認されています。ただ私たちが確認できていないだけで、かなりの数が夜の空を飛んでいるのかもしれませんが。夜の空に耳を澄ませてみて下さい。謎の声を聞くことが出来るかもしれません。



お知らせ

第13回やせいのいきもの絵画展 テーマ「奄美の夜の森・夜の海」

と き：平成 24 年 12 月 8 日～平成 25 年 2 月 3 日

奄美群島の 24 の学校から 350 点の応募がありました。全ての作品を展示しています。子どもたちが描いた感性豊かな作品を是非、見にきて下さい。

報告

アマミノクロウサギ交通事故防止キャンペーン

と き：平成 24 年 10 月 1 日～ 10 月 31 日

特別イベント

と き：平成 24 年 10 月 6、8 日

アマミノクロウサギの交通事故を防止するため、アマミノクロウサギ着ぐるみ「あまくろ」と一緒に、チラシ等の配布を行いました。配布には、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会や奄美マングースバスターズなど、多くの方にご協力いただきました。



第 13 回やせいのいきもの絵画展・賞状授与式

と き：平成 24 年 12 月 8 日

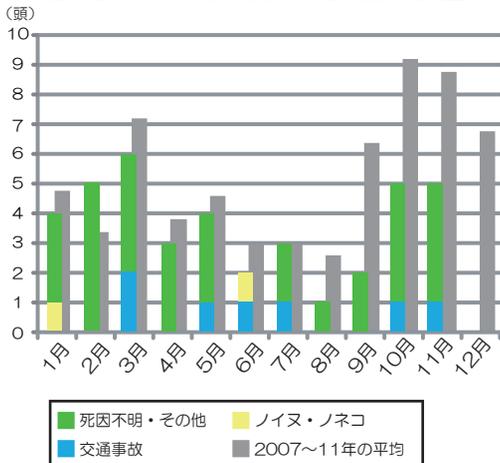
場所：奄美野生生物保護センター

入賞者 12 名に、協議会会長より賞状と副賞が授与されました。



アマミノクロウサギ死体確認数

(2012年 アマミノクロウサギの死体確認数と死因)



※アマミノクロウサギがケガをしていたり、死んでいるのを発見したら奄美野生生物保護センターまで連絡して下さい。



奄美に住む動物たちのために、あなたができること

安全運転

林道では20km/h以下で走行しましょう。

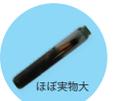
犬・ねこの適正飼育

捨てない

最後まで責任をもって飼いましょう

マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になります。



不妊・去勢手術

繁殖制限することで、望まれない命を生み出さないことと、ペットの健康を守ることになります。

犬・ねこに関するお知らせ

ペットに対する、日頃からの災害の備えをしましょう。災害時に動物を守るためには、まず飼い主が無事であることが大切です。その他には、迷子になった時のためのマイクロチップや迷子札の装着。エサや薬など備蓄品の用意もおきましょう。また、ケージがあると避難する際や避難場所で役立ちます。

いきものおもしろ写真館



オヒルギの種子

ムーミンに出てくるキャラクター「ニョロニョロ」に見えませんか？泥をかぶって白くなったところ、懼が開いている部分が手に見えるところです。何気ない写真も見方を変えると、何か違うものが見えてくるかも。



編集後記



年末となりました。毎年思うのが、1年経つのがなんて早いことか。年始に誓った目標はいくつ達成できたか？一つもない。来年こそは！と、去年も思っていなかったか？きっと来年も同じことを思うのかな？いやいや、来年こそは！と、ここ数年繰り返していないか。やっぱり、来年こそは頑張ろうと思う今日この頃です。